

## わかる楽しさ できた喜び いきいき輝く作見っ子 ～考える力を育てる授業づくり～

加賀市立作見小学校

### 1 事例の概要

#### (1) 研究主題設定の理由

これからの社会は、実生活の様々な場面で直面する問題に対して「どの知識を使い、どう解決するか」を自分で考え、その過程や結果を周りのものに自分の言葉で表現、説明する力が一層重要である。本校の児童は、応用問題や自分の考えを発表する力が弱いという実態から、みんなで考え合う学習をさせることによって、思考力を養いたいと考えた。そこで昨年度は、副題を「指導と評価の一体化をめざした授業づくり」とし、指導と評価の一体化と算数的コミュニケーションを高める工夫を通して研究に取り組んだ。研究を続けてきて、今年度、どのクラスも子どもたちが活発に発表するようになり、研究の成果を実感している。子どもたちは自分の考えを発表したいと進んで挙手し、授業に活気が出てきている。

今年度は、副題を「考える力を育てる授業づくり」とし、指導と評価の一体化を基盤とし、考える力を育てる教材開発を重点として推進している。また、考える力を育てるためには、基礎学力も不可欠と考え基礎学力づくりにも取り組んでいる。

#### (2) 研究の内容

- ① 考える力をつける指導
- ② 指導と評価の一体化
- ③ 基礎学力の充実

A-1 教育目標

A-2 研究の構想図

A-3 研究組織図

### 2 実践内容

#### (1) 考える力をつける指導

子どもは、できるようになりたい、分かるようになりたいと常に思っている。そのために、自分なりに考える。しかし、いつもできたり分かったりするわけではない。自分が気付かなかった考えや自分と違う表現などを友達から得ることにより、友達の考えの素晴らしさに気づく。そして、友達と学ぶことが必要であると感じるだろう。この気持ちを育てる授業こそが、考える力を育てる授業である。そこで「なぜだろう」「どうしてだろう」といった考える場を設定することによって、友達と一緒に考える楽しさを味わわせたいと考えた。

#### (2) 指導と評価の一体化

評価のとらえ方として、子どもをつまずきを克服させたり、よい点を知らせて自信を持たせたり、課題を自覚させて学習を改善させたりするものとおさえ、子どもの学習状況から教師自身の授業力と評価力を振り返り、授業を改善するためのものと考えた。つまり、成績をつけるための評価ではなく、指導に生かすための短いスパンの評価と、教師が単元の目標を明確にし、子どもの状況を把握しながら目標達成に向けて指導改善していく長いスパンの評価である。これらを合わせて、子どもに確かな学力を保証し、教師の授業力を鍛えていこうと考えた。そして、授業の各場面で成果を見とって次の指導に生かしていくことが大切だと考え、単元指導計画を作成した。また、個に応じた指導の工夫を図るために、子どもの実態に対応した学習形態の工夫を図った。

B-1 単元指導計画

B-2 誤答分析

B-3 評価の工夫

### (3) 基礎学力の充実

好ましい授業づくりを進めるためには、学級づくりが大切だと考えた。学習のしつけ・家庭学習の系統性・ノート指導の系統性を4.5月の重点事項と考え、取り組んだ。家庭学習の重要性は、プリントにまとめ保護者に配布してお願いした。また、例えば、子どもたちの話し方の指導や聞き方の指導、教師の発問や机間指導などのように、子どもたちの考える力を育てるために必要な教師の指導技術については確認をし、授業力アップカードにまとめた。

基礎学力をつけるために、朝はじっくりと学校全体で読書を行い、静かな落ち着いた気持ちで1日が始められるようにしている。さらに、国語・算数のチャレンジタイムを設定し、終礼後に漢字・計算を中心に10分間行っている。こつこつ励むことの大切さを育てるために、努力の奨励として知徳体の各分野で校長賞を設け6月から実施している。また、当たり前のことがきちんとできるように、作見っ子の10項目も作成している。

C-1 家庭学習のプリント

C-2 授業力アップカード

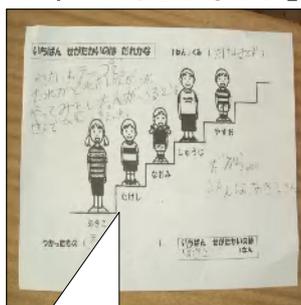
C-3 努力の奨励

C-4 日課表

### 3 指導の実際

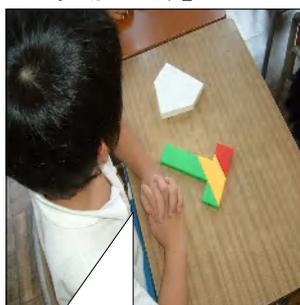
課題の工夫を通して思考を揺さぶり、思考を深める発問の工夫をし、子どもたちに思考力を身に付けさせたいと考えた。

#### 1年「どちらがながい」



いちばんせが長いのはだれかな？

#### 2年「形づくり」



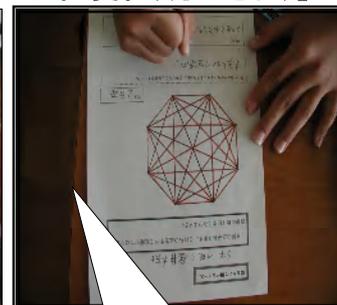
いろんなパズルにちょうせんしよう。

#### 3年「長方形と正方形」



絵の中から、直角三角形・長方形・正方形をすべて見つけよう。

#### 6年「変わり方のきまり」



8個の点があります。これらの点をすべて直線でつなぐと、直線の数は何本になりますか？

D-1 指導案(4年)

D-2 指導案(5年)

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・一人一人の理解の様子に気をつけて、指導を心がけるようになった。
- ・成績をつけるための評価ではなく、授業の中で生きる評価、次時の授業へ生かす評価をめざし取り組むことができた。
- ・自分の考えを、図・式・操作などいろいろな方法で表現したり、論理的に順序よく話をするために語り始めの言葉を使って説明したりすることができるようになった。

#### (2) 課題

- ・話したくなる・話さずにはいられない「楽しくて興味のある授業」を工夫する。
- ・考えを深めるための教師の関わり方や発問の工夫をする。
- ・読み、書き、計算などの基礎的な学力の定着を考える。

E-1 アンケート結果

## 自ら学ぶ子の育成 ～かかわり合い ひびき合う授業をめざして～

内灘町立大根布小学校

### 1 事例の概要

#### (1) 主題について

本校では、めざす学力を、知識理解や技能・表現力などの「見える学力」だけでなく、学びたいという気持ちをもち続けて学ぼうとする『学ぶ意欲』、よりよい解決の仕方となる『思考力』と『学び方』、自らを見つめ高まろうとする『自己評価力』、学習集団の中で密に関わり、高まり合おうとするための『コミュニケーション力』(かかわる力、表出する力、受容する力)などの「見えにくい学力」がこれからの社会を生きていく子どもたちにとって大切であると考え、子ども達が自ら学ぼうとする姿を通して、これらの確かな学力を育みたいと考えた。そこで、自ら学ぶ子の育成を主題に掲げ、確かな学力向上をめざし実践を行ってきた。

#### (2) 副題について

確かな学力向上のためには、学び合う場の一層の充実を図ることが必要である。そこで、「かかわり合いひびき合う授業をめざして」と副題をかかげ有効なかかわり合いを通して、学び合う楽しさを味わい、自己の高まりを実感し、学んだという成就感を持つことのできる授業をめざすことが確かな学力を育むことと捉えた。「かかわり合い」とは、学び合いの楽しさを味わうことである。教師と子どもが、あるいは子ども同士が、価値のある教材とかかわり、ねらいにせまる課題に触れ、かかわりをもった時、授業を楽しいと感じ、よりよい学びを見つけ始める。「ひびき合い」とは、いくつものかかわり合いの中で、「なるほど・やってみよう」と学んだ喜びを実感し、よりよい学びを求め意欲的になることと捉えた。かかわり合い、ひびき合う授業を実践する中で子ども達は自ら学ぶ力を見い出すであろう。また、担任と子ども達がめざす授業像を話し合い、学級の実態に応じた授業像を掲げ、自ら学ぶ意欲を喚起することとした。

#### (3) 研究のねらい

- ① 児童の実態を把握し、授業改善の方向性を明確にする。
- ② 学んだ喜びを実感し、学ぶ意欲が湧く授業実践に取り組む。
- ③ 学力調査、意識調査から研究の有効性を検証する。

#### A—1 研究構想図

### 2 実践内容

#### (1) 学びのスタイルの構築と学んだ喜びを実感できる評価

##### ① 学びのスタイルの構築

##### ア 課題解決型学習の実践

自力解決	<b>課題設定の工夫</b> ・必要感のある ・個々が選択できる ・魅力のある ・本質に迫る(教材・題材) <b>自力解決の手だて</b> ・時間の保障 ・既習の掲示 ・ノート指導 ・ワークシート ・ヒントカード
学び合い	<b>効果的な学び合いを設定</b> ・ペア、3人、グループ、学級で ・深める発問の工夫(思考を焦点化する発問)
ふり返り	<b>自己を見つめることの習慣化</b> ・1時間の学習の伸びを実感できる手立て(評価カード・ふり返り文・発言)

##### イ 有効なかかわりの工夫

ウ めざす子どもの姿とつけたい力の明確化

エ 思考力をつける授業の工夫

オ 少人数授業の実践(算数科)

② 学んだ喜びを実感できる評価

ア 学ぶことの価値を味わう自己評価・相互評価(児童)

イ 授業に生きる評価(教師)

(2) 家庭との連携

① 学校保健委員会での取り組み(H18.19年度)

Let's improve our healthy life style!! Part 2(健康的な生活習慣を向上させよう)  
家庭での生活を家族との協力のもとで改善しようと子どもたちが取り組み、実践を発表した。

② 親から子へのメッセージ

授業参観の感想を子へのメッセージ形式にして書いてもらい、児童の意欲につなげた。

③ 心すくすくノート

石川県教育委員会生涯学習課の「心すくすくノート」を夏休み中に全校で取り組み、基本的な生活習慣や家族でふれあう時間の確保につなげた。

④ 親子の手紙

石川県教育委員会生涯学習課の親子の手紙に全校で取り組み、親子のふれあいにつなげた。

B-1 学びのスタイルの構築

B-2 めざす子どもの姿とつけたい力

B-3 評価の工夫

B-4 3年指導案

B-5 5年指導案(少人数)

B-6 保健便り

B-7 家庭との連携

3 成果と課題

(1) 成果

- ・学校が楽しいというアンケート結果にみられるように、授業に意欲的に取り組む姿がみられるようになった。
- ・課題設定の工夫やかかわり合う場の工夫により、課題解決型の授業スタイルが定着し、自ら学ぶ姿勢がみられるようになってきた。
- ・授業をふり返るという活動が定着し、自己の伸びを自覚し、友達のよさを意識する自己評価や相互評価の力がつき、それが次の学びへとつながるようになってきた。
- ・少人数授業での発表しやすい授業形態やきめ細かな指導による自信が、他の教科にも波及しよりよい効果をみることができた。
- ・学習規律、読書指導、朝自習の取り組みなどで集中して学ぶ姿勢が育った。
- ・家庭の協力により、基本的な生活習慣を改善しようとする傾向がみられるようになり、家庭学習も定着してきた。

(2) 課題

- ・授業を通して思考力を育てることを意識するようになってきたが、さらに、確かな学力を育む取り組みを実践していく。
- ・自己評価力や相互評価力は育ってきたので、それを学習内容の把握のための評価に結びつける手立てを工夫していく。
- ・考えを伝えるための言葉の力の不足が感じられるので、全教育活動の中で意識して指導していく。
- ・学力調査の結果を真摯に受けとめ、改善策を立て継続的に学年に応じた指導を実践していく。

C-1 意識調査

## 主体的に学ぶ子をめざして ～個が生きる学習形態の工夫～

志賀町立土田小学校

### 1 事例の概要

本校では、研究主題を「主体的に学ぶ子をめざして」とし、この主題に迫るために個が生きる学習形態を工夫しながら、一人一人の児童にきめ細かな指導、支援を行っている。『①個が生きる算数的活動の工夫』『②個が生きる学び合いの場の工夫』『③個が生きるための指導と評価』という3つの仮説を立て、算数科を中心に仮説を検証した。

#### A-1 研究全体構想図

#### A-2 主体的に学ぶ子の姿

### 2 実践内容 ～個が生きる学習形態の工夫～

#### (1) 個が生きる算数的活動の工夫

基本的な学習過程を「ふり返る→つかむ→考える→高める→まとめる→ふり返る」とし、児童一人一人が自分の考えを持って学び合いに参加するために、自力解決時に操作ができる『そうさコーナー』を設けた。『そうさコーナー』では、具体物や半具体物を操作する活動を取り入れ、児童が主体的に算数的活動を選択できるようにしている。また、ヒントカードから解決方法を考える『ヒントコーナー』も設けている。

#### (2) 個が生きる学び合いの場の工夫

自力解決時に、自分なりの意見は持てても、一斉学び合いの場で、どんなふうに話したらいいか戸惑う児童の手だてとして、一斉学び合いの前にペアやグループで考えを話し合う場を設けた。本校では、この場をトークコーナーとネーミングし、発達段階に応じて次のような活動のねらいを設定した。

- ・発表練習をし、分かりやすく友だちに説明できるようにする。
- ・友だちと話し合うことで、自分の考えに自信を持つ。
- ・友だちの考えとの類似点や相違点を見つける。
- ・友だちの考えと比べ、自分の考えを修正する。

#### (3) 個が生きるための指導と評価

児童の実態を把握するための手だてとして

- ① レディネステストを行い、既習事項のつまづきを吟味する。
- ② 指導案の展開に、個に応じた支援を3～4つの支援枠で明記する。
- ③ 展開に評価場面を明記し、さらに児童の変容を把握するため2回の評価場面を設ける。
- ④ 板書計画を作成し、教師の発問と児童の予想されるつぶやきを記入する。
- ⑤ 1時間ごとの座席指導評価表と単元全体の単元指導評価表を作成し、評価する。

#### (4) 学習を支える環境の工夫（習熟の時間確保）

朝の自習時間をパワーアップタイムと位置づけ、算数の基礎・基本習熟の時間としている。昨年度までの計算プリントに加え、今年度は『暗算タイム』『そうさタイム』を設け、算数を活用したり、量感をつける時間としている。

#### B-1 学び合いの場の系統表

#### B-2 トークコーナー

#### B-3 評価表の活用

**B-4 そうさタイム年間計画****B-5 パワーアップタイムの様子****3 指導の実際** 6年算数科 単元 体積～かさを調べよう～

## (1) 個が生きる指導のために

基礎・基本の定着をめざすトライコース、発展的な学習も取り入れるチャレンジコースのどちらの習熟度別コースにおいても、自力解決をめざすヒントコーナーやそうさコーナー、ペアあるいは小グループで学び合うトークコーナー、そして一斉学び合いなど学習形態を工夫することで、自ら進んで関わり考える力を育てる。

## (2) 本時の評価規準と支援

- |  |            |
|--|------------|
| ・公式のよさに気づき（進んで）活用しようとしている。   | [関心・意欲・態度] |
| ・縦・横・高さに着目して200 cm <sup>3</sup> の形を <u>考えている</u> 。(考え、根拠を明確にして説明している。) | [数学的な考え方]  |
- \* ( ) はAと判断する視点

〈トライコース〉

- ・積が200になる3口のかけ算を立式させながら縦・横・高さ気づくようにする。
- ・200 cm<sup>3</sup>の具体物を提示し意欲づけするとともに、児童自ら選んで使うことができるヒントカードを用意して、解決の見通しが持てるようにする。

〈チャレンジコース〉

- ・具体物や方眼のシートを用意し、児童が操作しながら考えることができるようにする。
- ・入れ物の展開図をつくり、そのことを通して底面と高さに着目するようにする。

**C-1 指導案****C-2 板書計画****4 成果と課題**

## (1) 成果

- ・学力調査やレディネステストで児童のつまずきを把握し、児童の学習の反応を予測して、自力解決のためのコーナーを用意することができた。
- ・算数的活動を工夫することで、児童一人一人が課題に向かって主体的に活動する姿が見られるようになった。
- ・一斉学び合い前に、子ども同士のペアやグループでの学び合いを取り入れたことで、主体的に自分の考えを発表したり修正したりする姿が見られるようになった。

## (2) 課題

- ・児童の意欲をさらに引き出すような課題提示の仕方を工夫する。
- ・グループ学習での学び合いで児童の変容を十分に把握し、一斉学び合いで生かせる手だてをさらに工夫する。
- ・児童が、主体的に次時の学習課題を見出せるような学習のふり返りを工夫する。
- ・事前・学習中・事後を通してより効率的な評価方法の開発をする。
- ・今後も単元計画の中に発展的内容を取り入れるとともに、算数を生活に活用しようとする態度を育てていく。

**D-1 児童の変容****5 その他**

各学年の既習事項を把握し、どの学年で算数的表現方法を身につけるかを系統表でまとめた。

**E-1 領域別算数系統表**

## 学び合う力を育てるために ～算数科を中心に～

七尾市立高階小学校

### 1 事例の概要

本校は全校 50 名の小規模校であり、複式学級が 2 つある。児童は、全体的に落ち着きをもって真面目に取り組む。教師の目が行き届きやすく授業におけるヒントカードや個に応じた指導が十分できる環境であり恵まれている。しかし、主体的に学習する姿勢や、粘り強く思考し判断することに弱さが見られる点がある。特に、自分なりに考えたことを表現することに慣れていない。

そこで、各自が捉えた考えをもとに、友達の考えと比較検討をしていく学び合いの授業づくりを目指し、学校研究に取り組んだ。その際、研究推進の柱として「授業研究部」と「複式研究部」の二つの部会を設け、以下の取組を中心に実践研究を行うことにした。

「授業研究部」では、「学び合う力」を育てるための授業について考え、実践化を目指した。具体的には、学習意欲がわく問題提示のあり方、学び合いでの教師の支援のあり方、算数的表現によるコミュニケーションを育てる指導、評価と個に応じた指導などを研究していった。

一方、「複式研究部」では、複式授業のあり方について考え、実践化を目指した。具体的には、リーダーの育成、ペア・グループ学習による対話、直接指導と間接指導での支援のあり方、ノート作りによる思考整理のあり方などを研究していった。

#### A-1 学校研究

### 2 実践内容

- ・「学び合う力」を育てるために大切なことを共有化する。(教師によるイメージマップ作り)
- ・基本的な学習過程を作る。(複式指導にも適用できるように)
- ・「学び合う力」とは何か、力を育てるための手立てを明確にする。
- ・「PISA 型読解力」向上のためのプロセスを取り入れた授業構想を作る。
- ・授業における「個の学びの変容」は、どこに見られたのかを観察する。
- ・「高階っ子 学習の約束」を作る。
- ・模擬授業による検討会を行う。

#### B-1 イメージマップ

#### B-2 基本的な学習過程

#### B-3 学び合う力と手立て

#### B-4 指導案における PISA 型読解力の視点

#### B-5 個の観察シート

#### B-6 高階っ子 学習の約束

#### B-7 模擬授業のねらい

### 3 指導の実際

#### 2年 かけ算（1）「かけ算の問題を作ろう」

##### 指導案に明記する視点

##### <学び合う力を育てるための手だて>

- ・ホワイトボードを利用して発表することにより、考えがよくわかり、比べやすいようにする。  
(友達の考えを読み取る力)
- ・ゆさぶり発問により、相談する機会をもつ。(集団で学ぶ力)

##### <この授業によるPISA型読解力>

- ・絵を見て、乗法を用いる場面をとらえることができる。(情報の取り出し)
- ・絵から情報を取り出し、問題文を作ることができる。(熟考)

##### <個の変容する姿>

Aグループ 2名

同じ数ずつの集まりを見  
つけることができる。



文作りの例を挙げる

「同じ数ずつ」と「いくつ分」が分  
かり、問題文を作ることができる。

Bグループ 3名

同じ数ずつの集まりを見  
つけることができる。



何がいくつあるかを、数えながら確認する。  
穴あき問題文のワークシートを用意する。

「同じ数ずつ」と「いくつ分」が  
分かり、ワークシートを使って、  
問題文を作ることができる。

C-1 指導案2年

C-2 学習の様子(2年)

C-3 個の観察シート(2年)

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・『課題をつかむー考えをもつー考えを広めるーふりかえりをする』の基本過程をはっきりとさせることにより、児童に主体的な学習への取組む姿が見られるようになってきた。
- ・その基本過程は、複式授業における『直接ー間接』時における学習のステップにも4つの基本過程が適用させていくことができた。
- ・また、同時間接授業での子どもたちの学習の見通しがもてるようになった。
- ・全職員による構想図作成に向けての作業を幾度も重ねることにより、学校研究に対する共通意識の高まりと共有化が図られた。
- ・個の学ぶ姿を観察することにより、その子なりの学びの成立には、授業者のどのような働きかけが有効だったのかを協議会での話題にあげることができた。
- ・PISA型読解力を育てる意識を授業者が明確に持つことにより、児童の一人ひとりが自分なりの考えを持ちながら、学び合いに入ることができた。

#### (2) 課題

- ・学び合う姿を育てるために、導入時における強い課題意識の持たせ方をさらに工夫改善する。
- ・複式における直接指導、間接指導と発達段階に応じた学び合いのあり方を関連づけた指導過程を工夫する。
- ・思考力と表現力を高めるための評価方法や指導法を研究する。
- ・算数科を中心にPISA型読解力をつける授業力向上に努める。

## 考える力を中核とした読む力・書く力の育成

輪島市立町野小学校

### 1 事例の概要

本校の児童は、基礎学力調査の結果から、細かい点に注意して文章を正しく読む能力や、要旨をまとめたり、考えを書いたりする能力が不足していることがわかった。このことから「読む力」とどまらず、「書く力」や特に「考える力」と関連した部分に課題があると考えた。これは、PISA型読解力の求める方向とも一致している。そこで、読解力に焦点をあて、「考える力を中核とした読む力・書く力の育成」をめざして研究を進めることとした。

本校では、PISA型読解力の特徴に対応するために、文章や資料を単に読むだけでなく、考えながら読んだり、読んで考えたことを書いたりする活動を大切にしたいと考えた。そして、国語科を中心に各教科や学校の教育活動全体を通して、考える力を中核とした読む力・書く力の育成に取り組んだ。研究組織としては、授業研究推進部、読書活動推進部、全校的活動推進部の3つの部会を設け研究を進めた。

#### A-1 学校研究

### 2 実践内容

#### (1) 授業研究の推進

##### ① 「7つの指導のねらい」に沿った授業の改善

授業研究では、文部科学省の読解力向上プログラムに示された「指導の改善の方向」の共通理解を図り、各教科・領域にわたって「7つの指導のねらい」に沿った授業の改善に取り組んだ。特別な授業をするのではなく、普段の授業を「7つの指導のねらい」に沿って改善することが大切だと捉えて実践してきた。

##### ② 「読解力に関わる年間指導計画」の作成

「7つの指導のねらい」を、どの単元でどのように扱うかについて学年毎に年間指導計画を作成し、学校としての指針を整理した。

#### (2) 読書活動の推進

- ・「読書の質や幅の広がりを目指した活動」として、授業の中での読書活動への取り組み、読み聞かせの実施、ブックボックスの設置などをおこなった。
- ・「読書の習慣化を図る活動」として、朝読書と家族読書の取り組みをおこなった。
- ・「児童の読書傾向を捉え、読書指導の改善に活かすための活動」として、読書記録、読書のめあてなどに取り組んだ。

#### (3) 全校的活動の推進

##### ① 読解力向上リテラシータイムの実施

毎日、午後1時45～55分までの10分間を、「リテラシータイム」として日課表に位置づけ、漢字・計算を中心に基礎的な学力の向上に取り組んだ。さらに読む力・書く力を向上させるために、毎週金曜日を「読解力向上リテラシータイム」として特設した。

##### ② 学年発表……音読、朗読、詩の発表、言葉遊び等

##### ③ 全校テストの実施

#### B-1 「7つの指導のねらい」

#### B-2 読解力の指導に関する年間計画

#### B-3 読書活動の推進例

#### B-4 読解力向上リテラシータイム問題例

### 3 指導の実際

#### 第3学年 社会 「どこで買うの、そのわけはなんだろう」

【改善の方向】 ウ (ア) 多様なテキストに対応した読む能力の育成	
【読解力向上に向けた授業改善の視点】 本時では、多様なテキストの1つとして、写真やビデオの読み取りを取り入れた。小売店の写真やビデオを見て、既習のスーパーマーケットの事例と比較しながら、その工夫に気付くようにしたい。	
【テキスト】	《写真》
	
魚屋	肉屋
	《ビデオ》
	
	小売店の人に対するインタビューや、買い物客の様子を写したもの

#### 第6学年 国語 相手や目的に合わせて書こう「ガイドブックを作ろう」

【改善の方向】 ア (イ) 評価しながら読む能力の育成	
【読解力向上に向けた授業改善の視点】 ガイドブックから必要な情報を読み取ったり、内容や形式について、これまでの知識や経験と照らし合わせたりしながら、幅広い観点で評価しながら読む態度を育てたい。	
【テキスト】	《パンフレット》
	
	
	
	

C-1 3年 指導案

C-2 6年 指導案

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・「文章や資料を考えながら読んだり、読んで考えたことを書いたりする場面を大切にする」ことが、読解力向上につながったと感じることができた。TK式学力検査「国語」の結果からも、どの学年も「読む力」と「書く力」が伸びていることが分かる。
- ・読書活動の実践を通して、学校での読書はもちろん、家庭で読書する児童も増え、読書の幅も広がった。読書活動を教育課程によって支えたことで、児童の豊かな読書生活を築くことができたと考える。
- ・読解力向上リテラシータイムや全校テスト、学年発表、家庭学習、生活習慣調査などの全校的活動推進部の取り組みによって、基礎的・基本的な学習内容が定着し、さらには、読み書きや発表の技能が高まり、読解力向上につながる基盤を作ることができた。
- ・日常の授業の中にも、「比較して読む」「理由をつけて自分の考えを述べる」など、読解力向上を意識した指導が自然な形で取り入れられるようになってきた。

#### (2) 課題

- ・児童には、「読む力」と「書く力」が徐々についてきたが、今後は、「聞く力」「言語についての知識・理解・技能」の育成にも力を入れながら、PISA型読解力向上の視点に沿って、「考える力を中核とした読む力と書く力の育成」に努めたい。
- ・児童は、考えながら書くことによって、自分の考えを持つようになってきたが、それを説得力を持って伝える力が十分ではないと感じる。伝える力を育てることが今後の課題である。

D-1 TK式学力検査「国語」の結果

## 心豊かに生き生きと活動する子をめざして ～心の居場所を基盤とした確かな学力の育成～

能登町立松波小学校

### 1 事例の概要

本校は、心豊かに生き生きと活動する子をめざして、「心の居場所を基盤とした確かな学力の育成」に取り組んだ。県基礎学力調査の結果では、4教科とも概ね県平均レベルであるが、応用的な問題に不十分な点が多い。確かな学力をさらに高めるために、「わかる楽しい授業づくり」「進んでできる自分づくり」「高め合う仲間づくり」の3つの仮説をたてて実践した。その結果、課題解決的学習を中心にした取り組みでは、児童は安心感・満足感をもち、自分の考えを図や言葉などで表現できるようになってきたが、考える手がかりや表現の手段や方法について課題が残る。

#### A-1 リーフレット

### 2 実践内容

#### (1) 「わかる楽しい授業づくり」の取り組み

##### ① 課題解決的学習の充実

児童の意欲が継続するように1時限の学習だけでなく、単元計画でも大きい全体の課題を設けている。どちらも「つかむ→考える→深める→まとめる」の4段階構成で実践してきた。

##### ② 教えて考えさせる授業の取り組み

これは、市川伸一氏が提案する学習過程で、「教師からの説明→理解確認→補充・発展課題→自己評価活動」の4段階構成の授業である。このほかに課題解決的学習をベースに、一部、教えて考えさせる授業を取り入れた折衷スタイルの実践も試みた。

##### ③ 少人数授業とTTの活用

4・5・6年生の算数科では、習熟度別少人数指導を中心にしながら、課題別による少人数指導も適宜取り入れ、主体的な活動や意欲を育む単元計画を見通した課題づくりを行ってきた。

また、1・2年生の算数科では、TTを取り入れた授業を行っている。

##### ④ 考え、表現する力を高める指導法の工夫・改善

県基礎学力調査の結果から、4教科とも応用問題を解く力が弱かったので、考える力や表現する力をつけるために教科ごとに工夫・改善を図った。

##### ⑤ 指導と評価の一体化

県基礎学力調査を児童個々の再学習へ活用したり、通過率の低い問題や単元を取り上げた授業研究を行ったりして指導に生かしている。

#### (2) 「進んでできる自分づくり」の取り組み

##### ① 学習の基礎づくり

朝自習タイムで漢字・計算・読書を取り入れている。また、百マス計算強化週間を学期に1回設けたり、チャレンジ漢字・チャレンジ計算テスト(9月・1月)を実施したりして、計算力の向上を図っている。

##### ② 家庭学習の充実

宿題の出し方のアンケートを取り、内容や量、時間などについて見直し、意欲を高めるような家庭学習の出し方の工夫を考えた。

#### (3) 「高め合う仲間づくり」の取り組み

##### ① 学習規律の定着と基本的生活習慣の確立

互いに認め合えるためには、学習や生活のルールをきちんと守ることが大切である。

② カウンセリングマインドを生かした支援

授業の指導計画の中に、カウンセリングマインドを生かした支援を組み入れ、児童を意欲づけたり、児童に安心感や満足感を与えたりしている。

**B—1 授業改善票**

**3 指導の実際** 1年国語科 単元名 「いろいろなくちばし」

**(1) 指導のねらい**

写真を手がかりに、はちどりのくちばしの特徴と働きを読み取る。

**(2) 4段階の指導過程を明確にする**

- ① つかむ……課題「はちどりのくちばしは、どんな形かな。くちばしでどうやってすうのかな。」
- ② 考える……説明している文から「細い」「長い」「花の中に」「小さな鳥」「みつ」のキーワードに着目して、くちばしの形と使い方を考える。ワークシートに書く。
- ③ 深める……読み取ったことを話し合う。  
自分と似た意見や別の意見を聞くことで考えを深める。
- ④ まとめる……はちどりのくちばしの形とみつの吸い方をまとめる。(動作化)  
ふり返りをする。

**C—1 指導案**

**C—2 授業実践記録**

**4 成果と課題**

**(1) 成果**

- ・課題解決的学習の充実を図る取り組みでは、児童が授業のパターンに慣れることで、児童に安心感・満足感などをうみだすことができた。
- ・教えて考えさせる授業に取り組んでみて、教師からの説明を聞いてからスタートし、全員で理解の確認をしてから進むので、児童の思考がすっきりして、内容の理解につながられた。
- ・課題解決的学習との折衷スタイルの授業では、課題に対して自分の考えが持てるようなわかる楽しい授業に近づいた。
- ・少人数授業やTTを取り入れた指導で、単元末到達度90%の目標を概ね達成できた。
- ・考え、表現する力をつけさせるために、教師がどこで、何を活用し、どんな力をつけさせるかを意識できたことで、子どもたちは、自分の考えを図や言葉や絵で表現することが少しずつできるようになってきた。
- ・指導と評価の一体化では、県基礎学力調査の結果を指導に生かし、通過率の低い単元を丁寧に指導したことで、単元のまとめのテストでは、概ね平均90点をとることができた。
- ・学習の基礎づくりでは、チャレンジ漢字テストやチャレンジ計算テストでは、90点以上の児童が95%以上となった。また、読書量も1.5倍に増えたり、家庭学習の見直しにより、社会や理科の内容も取り入れる児童も増えたりするなど、学習意欲も高まってきた。
- ・カウンセリングマインドの支援を授業に取り入れることで、自由に発言できる雰囲気が出た。

**(2) 課題**

- ・学習課題に対してどの子も自分の考えをもつことができるような学習活動の組み立て「課題のつかみ」「考える手がかり」を示すことが大事である。
- ・自分の考えを表現することは、個人差があるので、もっと表現する手段や方法について種類をふやしていく指導が必要である。
- ・家庭学習の内容を、子どもの興味・関心を高めるものや、自主的に継続できるようなものなどを含めて考えていく必要がある。

## 読解力を育む指導の研究 ～学び合える生徒の育成を通して～

能美市立根上中学校

### 1 事例の概要

本校では、平成18・19年度に石川県読解力向上推進事業研究校の指定を受け、「読解力を育む指導の研究～学び合える生徒の育成～」をテーマとして、研究実践を行ってきた。PISA型読解力は、学習指導要領の目的を具現化することで達成することができる力であると捉え、確かな学力の向上を図る取り組みの中で、各教科の実践を通して実現を目指してきた。社会科においても、教科としてつきたい力との関連において、読解力をどう捉えるかを分析する中で、実践を行ってきた。

A-1 学校研究の概要

A-2 研究の構想図

A-3 社会科の取り組み

### 2 実践内容

#### (1) 指導上の工夫点（視点）

##### ① 読解力の観点

社会科の読解力は、多様な資料を適切に活用することによって身に付くと考えた。適切な資料を選択し、その資料を根拠として自分の意見を組み立て、発表力や文章表現力につなげることができるようにした。

##### ② 協同学習の観点

授業においては、少人数グループ(3～5人)を作り、話し合いの機会を多く設けた。グループで、司会者や記録者や準備係を設け、役割を持って活動できるようにした。グループの中心にはホワイトボードを置き、グループの全員が課題意識を持って話し合いに参加できるようにした。授業では、最初、個人で考えを持つ「自己解決の場」を設定し、その上で、少人数で意見を交換する「学び合いの場」を設定した。

##### ③ 学習課題の観点

多様な考えを引き出し、課題解決をより効果的に進めるためにも、多面的・多角的に考えることのできる資料を準備し、提示方法を工夫した。

#### (2) 活動例

※ 学習単元：3年公民的分野、第2部 第4章 納税者として国の経済を考えよう。

「社会保障と私たちの生活」(帝国書院)

少子高齢社会を迎える日本にとって、介護保険制度を通してより望ましい社会保険制度をどのように充実させていくことができるか考える。

B-1 ワークシート

B-2 学習のてびき

### 3 指導の実際



C-1 指導案

C-2 ワークシートの実際

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ① 生徒の興味・関心のある資料を選び、活用することにより、発想力が高まることがわかった。
- ② 学習課題の解決のために、協同学習を取り入れることで、一人一人の考えの良さを共有し、自分と異なる考えを積極的に聞く態度が育ってきた。

#### (2) 課題

- ① 資料選択を教師が行い、提示していることが多いので、生徒が主体的に調べる場を設定し、資料を活用する力を高めていく必要がある。
- ② グループ学習を積極的に取り入れて、生徒同士で主体的に思考力・判断力・表現力を高め合いながら、集団作りを行っていくことが大切である。
- ③ 社会科の読解力は、問題解決的な学習を展開し、生徒が課題を追究していく中で身につくことがわかったので、日常の学習が一方的な知識重視の授業にならないよう工夫することが大切である。
- ④ 自己評価力を高める工夫が不十分であったために、指導と評価の一体化を行ったり、学習に対する達成感を感じさせることが十分にできなかった。今後、ねらいを明確にした自己評価カードを工夫して継続的に取り入れていくことが大切である。

D-1 学校研究のまとめ

D-2 学校研究の成果と課題